

平成28年度 第1回 南区地域福祉アクションプラン推進委員会 会議録

- 名 称 第1回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会
- 日 時 平成28年8月4日(木) 午前10時00分から午前11時50分
- 会 場 白根健康福祉センター3階 多目的ホール
- 出席者 推進委員 [20名]  
金子勝委員, 石山和美委員, 牛腸久実子委員, 佐久間栄子委員, 大野朗子委員, 遠藤雪恵委員, 宮崎幸一委員, 長谷川次郎委員, 長崎正明委員, 小柳典子委員, 山宮勇雄委員, 間島和代委員, 田中順子委員, 登石弘淑委員, 永井正子委員, 柳博明委員, 相田信一委員, 山田ひろ子委員, 金子周永委員, 金子美和子委員  
アドバイザー 土橋敏孝氏  
事務局  
【南区健康福祉課】中村課長, 石倉補佐, 呉井係長, 大野主幹, 篠沢主幹, 長谷川主幹, 相田係長, 吉田主幹, 高木主査, 草間主事  
【南区社会福祉協議会】小林事務局長, 竹内補佐, 目黒主査, 三浦主事, 田村ボランティアコーディネーター
- 報 道 なし
- 傍聴者 なし
- 次 第 1 開会  
2 南区健康福祉課長, 南区社会福祉協議会事務局長あいさつ  
3 議事  
(1) 平成27年度南区地域福祉アクションプラン評価について  
(2) 土橋アドバイザーからの助言  
4 報告及び連絡事項  
(1) 「にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金審査結果について  
(2) その他  
5 閉会

午前 10 時	
事務局	<p>皆さんおはようございます。本日は盆前のお忙しいなか、また大変暑い中、会議に参加いただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>これより平成 28 年度の第 1 回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会を開催させていただきます。</p> <p>私は本日の進行を務めさせていただきます南区健康福祉課の石倉と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は後で会議録を作成する関係上、内容を録音させていただきます。ご了承をお願いいたします。</p> <p>開会にあたりまして、南区健康福祉課の中村課長よりごあいさつ申し上げます。</p>
健康福祉課長	<p>皆さんおはようございます。私はこの 4 月から南区の勤務になりました健康福祉課長の中村でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は本当に暑い中、お忙しいところ、南区の地域アクションプラン推進委員会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。このアクションプランでの計画というのが地域の支え合いを高めていく重要な事業が数多く盛られていると思いますので、本日は平成 27 年度の報告が中心になりますけれども、委員の皆様方から忌憚のないご意見等をいただいて、今後の活動に生かしていければと思っております。本日はお忙しい中、本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>続きまして南区社会福祉協議会の小林事務局長よりごあいさつ申し上げます。</p>
社会福祉協議会事務局長	<p>あらためまして皆様おはようございます。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。南区社会福祉協議会の事務局長の小林と申します。よろしくお願いいたします。皆様方からは日ごろの活動、地域福祉について推進していただき、また社会福祉協議会の事業についてもご協力をいただきまして大変ありがとうございます。職員だけではできるものではございませんで、いろいろな団体、民生委員をはじめ自治会長、さまざまな方たちからご支援いただきながら事業を推進しているしだいでございます。地域の助け合いという、先ほども中村課長の言葉にありますけれども、隣同士の助け合い、日々の助け合い、一緒に暮らす地域の仲間として助け合うということが大事になるのではないかと感じているところでございます。</p> <p>これからまた、皆さんからご協力、ご支援いただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますがごあいさついたします。</p>
事務局	<p>本日、お配りいたしました資料の確認をお願いいたします。事前にお送りしてあります資料でございますが、本日の会議次第、資料 1 「平成 27 年度南区地域福祉計画アクションプラン 南区福祉分野別計画評価表」でございます。資料ナンバー 3 「にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の概要」でございます。資料 4 「平成 28 年度南区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金審査結果について」でございます。</p> <p>本日配付したものといたしまして資料 2、「南区ふれあい福祉マ</p>

	<p>ップ」という薄い冊子が1冊ございます。本日、委員の皆様の名簿をお配りしてありますが、若干訂正がありましたので、本日配付いたしましたものに差し替えをお願いしたいと思います。</p> <p>資料の不足等ございませんでしょうか。それでは引き続きまして、今回新しく委員になられたかたがお二人いらっしゃいます。自己紹介という形で一言お願いしたいと思います。まず、茨曾根地区の石山委員さん、お願いしたいと思います。</p>
石山委員	<p>コミュニティ茨曾根ということで、前任者の方が頼みにこられてまして、皆さん方は役がついていられるのですが、一般のほうでの参加というか、協力をしてほしいということがありまして、何もわかりませんが、皆さんのお力を借りながら徐々に勉強していきたいなと思っていますのでよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それから連合保健会代表ということで相田委員さん。</p>
相田委員	<p>私、団体代表ということで、南区連合会から来ました相田信一と申します。連合会の理事ということで、庄瀬地区保健会の会長をしております。男性で会長というのは庄瀬で初めてですけど、勉強して皆さんに報告したいと思います。よろしく願いいたします。以上でございます。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございました。それでは以降の会議の進行につきましては南区地域福祉アクションプラン推進委員会開催要綱規定により、金子委員長からお願いいたしたいと思っております。それでは、金子委員長よろしく願いいたします。</p>
金子委員長	<p>皆さんおはようございます。私、委員長の金子でございます。本日の会議の目的でございますが、昨年度平成27年度を初年度とする6年間の南区地域福祉アクションプランというものができております。これにつきまして私どもの福祉の向上のために、この計画があるわけでございますが、私どもの役割といたしまして、この計画の進行状況の把握、評価を行うことにしております。本日の会議の中で、平成27年度の取り組みの内容の説明。27年度というのは、この計画の初年度になるわけでございますが、取り組みの内容等、評価についてこれから事務局から説明をいたしてまいります。説明終了後に皆様方からご意見をいただく予定でございますのでよろしく願いいたします。それでは次第の3、議事の中で(1)平成27年度南区地域福祉アクションプランの評価についてということを議題といたします。事務局から進行管理表、それから評価表、それらについて説明をしていただきたいと思います。</p>
事務局・吉田	<p>おはようございます。健康福祉課地域福祉係の吉田と申します。今日はよろしく願いいたします。</p> <p>まず資料2、A3ですが、訂正がありまして、13ページ下のところの一番上、進行管理表(掲載順1)となっておりますが、これを2に訂正いただきたいと思います。一番上のところの掲載順が1となっておりますが、それを2に直していただきたいと思います。それから申し訳ございません。その前の11ページ、地域のポ</p>

	<p>ランティア活動の8、これも同じく掲載順が2となっていますがこれを1に直していただきたいと思ひます。掲載順というのはこの冊子に載っています、分科会ごとの取り組み内容について掲載している順番ということで説明してありますが、掲載順がここでは間違っていましたので、訂正をお願いいたします。</p> <p>これからその資料等について説明させていただきます。今、見ていただきました資料2につきましては、各分科会で27年度の取り組み内容につきまして成果指標とします内容が1年間で実施する年度目標数値に対しまして、27年度中に実施した割合が90パーセント以上A、75パーセント以上をB、50パーセント以上をC、50パーセント未満をDとした評価を、年度評価欄に記載しております。また、28年度の取り組み内容は27年度の内容を引き続き取り組み、変更がなければこの計画の最終年度の平成32年度まで取り組んでいくこととなっております。取り組み内容が変更の必要がある場合は見直しを行い変更していくこととなります。</p> <p>今度は資料1を見てください。資料1の評価表はただいま説明いたしました資料2の評価をもとに、分科会別の小項目ごとに課題に対する取り組み内容を整理して評価を行いました。資料1の評価表の評価は、資料2のそれぞれの取り組み内容の評価を総合したものを原則としておりますが、明確に数値で評価できないものがあるために、達成した内容なども加味して評価しております。分野別に資料1、取り組み内容等評価につきまして、事務局から説明いたします。また分科会の委員さんからは分科会が出た意見について報告していただく予定となっております。</p> <p>なお高齢者福祉・介護者支援分野の小項目であります、高齢者の閉じこもりや孤立の防止と地域づくり分野の小項目、地域の茶の間ふれ愛地域サロン活動の支援は、取り組む内容が茶の間、サロンの内容で、重複しているものが多いために、地域づくり分野に合わせて説明させていただきます。今後は、また地域づくり分野で全てまとめて取り扱うことといたしております。それぞれ四つの分科会の事務局からの説明と、分科会委員の報告が終わりましたら、皆様から意見交換をしていただく予定となっております。それが終わりましたら、土橋アドバイザーから総括して助言をお願いしたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>
金子委員長	<p>それではまず始めに児童・子育て支援の評価についてお願ひしたいと思ひます。まず児童・子育て支援、よろしくお願ひします。</p>
事務局・長谷川	<p>それでは児童・子育て支援の分科会、分野別計画について説明いたします。私は健康福祉課児童福祉係の長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>関係資料は資料1を基に説明させていただきます。1ページをご覧ください。まず小項目名、子育て世帯が孤立しないまちづくりについてですが、三つの課題をあげております。一つ目の課題、子育て相談、支援に関する情報提供に対する取り組み内容は、妊娠届出時から南区独自の子育て応援冊子「みんないっし</p>

よ」を配布し、検診、育児相談会および保健師や助産師による訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供しました。次に課題の二つ目、子育て支援制度の充実に対する取り組み内容は、NPプログラム、BPプログラム、子育て広場等を開催したり、健診時には悩みを相談できる場をつくって、母親が孤立しないように支援しました。三つ目の課題、同世代の親同士の意識づくりに対する取り組み内容としましては、健診や育児相談会、同じくNPプログラム、BPプログラム、子育て広場に参加することで、同世代の子育て中の親同士の仲間づくりにつながりました。小項目に対する年度評価ですが、A3の大きな進行管理表の個々の取り組みの評価にはいくつかありましたが若干不足の部分があるということで、小項目の評価としましてはBといたしました。今後の課題は、健診や育児相談会、訪問等で情報提供はしていますが、その情報を生かし、孤立せずに子育てができていくか今後も検証していく必要があるということです。

次に資料2ページをご覧ください。次の小項目、地域で支えるゆとりを持った子育てができるまちについてですが、こちらも三つの課題をあげております。課題の1つ目、父親や家族の育児への参画に対する取り組み内容としましては、年3回の安産教室に、各回定員15人のところ1回あたり平均12人の父親参加がありました。育児への参画の第1歩となっております。また育児をしていく上で家族の協力はかせないものなので、安産教室や健診等を利用して、父親や家族の育児参加を啓発いたしました。二つ目の課題、地域からの声かけによる育児支援に対する取り組み内容としましては、子育て支援リーダーによる子育て広場などが、子育て中の保護者の居場所や地域との関わり場の場となっておりますので、地域の子育て支援リーダーの育成や活動の支援を行いました。三つ目の課題、子育てサロンやサークル活動などへの支援に対する取り組み内容としましては、サロン・サークルの活動を紹介するポスターを作成しまして、子育て支援センター、児童センター、児童館などへ配布し周知を行いました。サロン・サークルの交流会を通して活動の情報交換なども行っております。また子育てに関する相談機関として地域の主任児童委員さんや子育て支援センター、児童センターの職員等との意見交換を行い、いつでも気軽に育児相談ができることや、イベントなどの情報提供を行うなどの支援を行いました。こちらの小項目に対する年度評価も、先ほどと同じようにBといたしました。今後の課題としましては、現在取り組んでいる安産教室、子育て支援リーダーによる子育て広場やNPプログラムなどを継続して実施しまして、母親や家族が気兼ねなく参加できるようにしていくことと、社会福祉協議会が支援する子育てサロンなどの交流会の開催日時、開催方法などを検討し、子育てについて情報共有をできるようにしていくことが必要だということです。

次に3ページをご覧ください。次の小項目、子育て支援施設・事業の充実についてです。こちらも三つの課題を掲げております。課題の一つ目、子どもに関する悩みについてアドバイスに対

	<p>する取り組み内容としましては、健診や育児相談会、保健師や助産師による訪問および子育て広場などの機会に育児支援を行いました。課題の二つ目、子どもが安心して遊べる環境に対する取り組み内容としましては、児童館、児童センター、子育て支援センターなどの利用されている方からの声や施設担当による点検などをもとに、利用しやすいように施設の改善を行いました。三つ目の課題、子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分に対する取り組み内容としましては、ファミリーサポートセンターによる子育て支援の事業をホームページで情報を提供しました。また保育園の園解放や児童館のイベントなどの機会を利用し、子育てに関する情報を提供しました。こちらの小項目に対する年度評価もBといたしました。今後の課題としましては、ファミリーサポートセンターの支援者の数が年々減少しております、支援者に対するアプローチが必要であること。また、健診や新生児訪問はほぼ全員に実施しておりますが、育児相談会や子育て支援センターなどは希望者の参加になりますので、参加ができず一人で悩んでいる人がいないようにしていく必要があるということです。</p> <p>以上が27年度の評価についての説明を行いました。28年度の取り組み内容についてですが、27年度の内容とほぼ同じ内容を引き続き取り組んで行きますが、子育て広場などに来られない方のために、こちらから出向いて情報を提供するというアウトリーチ支援というものを28年度、今年度からモデル的に実施していくという内容が追加されております。以上で説明を終わります。</p>
金子委員長	<p>どうもありがとうございました。児童福祉・子育て支援分科会から全体について委員を皆様からお願いしたいと思うのですが、代表して金子委員様の報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
金子委員	<p>6月29日に意見交換会を児童福祉は行いました。委員の中で話が出たのは、子育て世帯が孤立しないまちづくりについてです。「みんないっしょ」という冊子で、毎年改訂ができないという部分で、ホームページをもう少し工夫してはどうかというところと、やはり病院などでも毎年変わっている部分もありますので、その部分だけでも印刷、見越して冊子に挟み込んで、内容が変わりましたと周知していくところで検討できないかという意見が出ました。実際にNPプログラムの開催では、中央、南区の中心部のほうで開催されていますが、南区は北から南という長い地域で、やはり中心部だけに片寄るのはどうかというところで、開催地の検討をしていただきたいという意見が出ました。そのほかでも地域で支えるゆとりをもった子育てができるまち、子育て支援施設、事業の充実では、委員の中では意見は出ませんでした。実際に福祉の部分ではやはり行政側と社会福祉協議会側さんでやっている内容が、かなりしっかりケアされているのではないかなという、意見が出ました。以上です。</p>
金子委員長	<p>どうもありがとうございました。質疑については、最後にまとめて行いたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは続</p>

	<p>きまして障がい福祉分科会から報告をお願いしたいと思います。事務局お願いします。</p>
事務局・大野	<p>健康福祉課保護係の大野と申します。障がい者福祉分科会の平成 27 年度の計画に対する評価についてご説明申し上げます。</p> <p>資料 1 の評価表の 4 ページをご覧くださいと思います。まず小項目名、福祉サービス利用の相談体制充実についてですが、課題は、相談支援事業者等の周知に対する平成 27 年度の取り組み内容は、基幹相談支援センターを周知する手段として、チラシを窓口に設置いたしました。また相談内容や連絡先等を南区だよりへ掲載いたしました。また社協だよりにつきましては、紙面の都合で掲載することができませんでしたが、引き続き 28 年度も掲載する予定にしております。この詳しい内容につきましては資料の 2、4 ページをご覧くださいと思います。資料の 2、4 ページのところに、A 3 の資料です、A 3 の大きさの資料の 4 ページをご覧くださいますと平成 27 年度の取り組み内容が記載されております。下の 4 ページの太枠で囲まれた下の部分です、その 27 年度というところがあるかと思うのですが、区だよりの掲載は 27 年度、目標 1 回に対して実績 1 回ということで、評価につきましては A。それから社協だよりの掲載につきましては計画 1 回に対して実績がありませんでしたので、評価といたしましては D。したがって全体の評価といたしましては年度目標 50 パーセント以上達成ということで、評価表につきましては C という評価をさせていただきました。今後の課題は、身近な地域から支援体制につなげるため、平成 27 年度、民生委員等を対象にした研修会を開催する予定にしております。</p> <p>続きまして評価表の資料 1 の 5 ページをご覧くださいと思います。資料 1 の 5 ページです。小項目名、障がいのある人と地域が交流できるまち、についてですが、課題は、地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿作りにたいする平成 27 年度の取り組み内容につきましては、地区社協 2 地区、これは新飯田と大通地区であります、この 2 地区で障がい者の方々へ多世代交流や昼食会の行事の参加案内を行いました。全地域で情報発信するところまでには、至りませんでした、障がい者が地域の行事に参加できるよう今後も情報発信に努めたいと思っております。このことにつきましては資料 2 の 5 ページです、5 ページに書いてあります。資料 2 の 5 ページに平成 27 年度の取り組み内容が記載されておりますのでご覧くださいと思います。</p> <p>それでは資料 1 の評価表の 6 ページをご覧くださいと思います。小項目名自立支援体制の充実についてです。課題は、地域の課題の解決に向けて話し合える環境の整備の推進であります。これに対する平成 27 年度の取り組み内容につきましては、南区保健医療福祉のつながりを深める会で 9 月と 2 月の 2 回、100 人程度の参加者で研修会を行いました。また年 4 回自立支援協議会を開催いたしまして、それぞれ他業種の横のつながりができ、情報共有ができました。小項目名に対する年度評価は、年度目標 90 パ</p>

	<p>一セント以上達成ということでAとさせていただきました。これについては資料2の6ページに平成27年度の取り組み内容が記載されておりますので後でご覧いただきたいと思います。</p> <p>続きまして資料1の7ページをご覧いただきたいと思います。小項目名、わかりやすい福祉情報の提供についてです。課題は、障がいのある人が安心して外出する、バリアフリー情報が不足しているということで、これに対する平成27年度の取り組み内容は、南区ふれあい福祉マップ作成委員会で、民生委員の方々と、駐車場、スロープ、点字ブロック、トイレ等を確認しながら現地を歩きまして、トイレマップを400部作成して障がい者の方々に配布させていただきました。小項目に対する年度評価は、年度目標の75パーセント以上達成ということでBとさせていただきました。これについては資料2の7ページに各内容が記載されておりますのでご確認いただきたいと思います。今後の課題は、マップへの情報の追加、活用それから福祉新聞の発行については、予算、作成者、内容等の課題がある関係上、今後こうした課題について検討する必要があると考えております。以上で障がい者福祉分科会の平成27年度計画に対する評価の説明を終わります。</p>
金子委員長	はい、ありがとうございます。それでは障がい者福祉分科会のから、金子委員様、よろしくお願ひしたいと思いますが。
金子委員	<p>7月6日、障がい福祉分科会を開催いたしました。事務局案に対して意見交換を行いました。その意見交換の結果について報告をさせていただきます。今ほど事務局から説明がございましたとおりで、とりわけ小項目で障がいのある人と地域が交流できるまちの意見交換の中でございましたが、コミュニティ協議会など地域で手話の講習会を開催して、聴覚障害者との交流の機会を作っていたきたいという意見が出されました。講師は手話サークルから派遣をします、ということがございます。次に小項目のわかりやすい情報提供についてでございます。これにつきましては、示された事務局の評価では、マップの作成部数2,000ということになっておりましたが、実際は400部の作成ということで、低評価になっておりました。しかしながら皆様方のところへも配布していますが、南区のふれあい福祉マップということで、冊子が出されている、それらも評価に加えるべきだろうという意見が出されました。2,000部のうちの400部ですから、その評価がDでいいのかという意見が出ました。今まで全く無かったものを出して、障がいに該当する人たちに400部のマップを配布することができたわけで、それはもう少し評価を上げればいいのかという意見も出ました。当初は2,000部に対する400ということでDということでしたが、障がい者への配布をしている、そしてマップの内容も素晴らしいものができ上がっておりますので、見ていただければわかるかと思ひますけれども、B評価に変更をさせていただきました。以上で障がい福祉分科会の報告とさせていただきます。</p>
金子委員長	はいどうもありがとうございます。それでは続きまして高齢

	者福祉・介護支援分科会の事務局からお願いいたします。
事務局・相田	<p>それでは高齢者福祉・介護者支援の分科会の事務局の説明をさせていただきます。私健康増進系の相田と申しますのでよろしく申し上げます。</p> <p>まず資料の1、こちらのA4の評価表は9ページをお開きください。あわせまして、資料2の進行管理表8ページをお開きください。資料1の評価表に基づいて説明して行きたいと思っております。小項目高齢者、8ページをお開きください。こちら課題が三点ありまして、まず一つ目が地域力の弱体化、人間関係が非常に希薄になっておりまして、隣近所の様子がわからないという課題があがっております。取り組み内容につきましては、地域からの要望によって地域での見守りを行う取り組みを南区社協・包括・南区役所などで支援をしております。結果、1自治会ではありますが、千日気かけ隊というところが発足しております。次に区役所及び圏域のケア会議を確実に実施し、他職種で顔の見える関係づくりや地域課題の洗い出し、また解決方法の検討をしました。次に課題の二つ目です。こちらは地域包括支援センターの認知度がまだ低いという課題に対してですが、取り組みの内容は、毎月1回「南区だより」に高齢者の相談窓口としての情報を掲載しております。茶の間の訪問時にさわやかトーク宅配便開催時にこちらの包括のPRをしております。また医療機関や薬局等にポスター、地域包括支援センターのPRするポスターを掲示してあります。次に、区内スーパーで行う高齢者出張相談会を開催してこの時にのぼり旗を出してPRをしております。続いて課題の三点目です。こちらは介護教室の参加人数が少ないという課題に対してです。介護者教室の新規に行う委託先の開拓を行いました。三つの日常生活圏域毎に開催ができるようになりました。また既存の委託先事業所におきましては実施回数や参加人数の増加に努めるようにしております。これらの三つの取り組み内容から小項目に対する年度評価は概ね計画どおり実施をすべての項目でしましたのでA評価といたしました。今後の課題につきましては、まだまだ地域力の再構築が求められている中で、一部の地域は何とかしようという動きが見られておりますが全体的に見るとまだ互助による助け合いの意識情勢が不足しております。住民主体の見守りや支え合いのできる自治会・町内会をこれからも増やしていく必要があります。次に地域包括支援センターの認知度は、まだまだ不十分な状態です。介護教室も各日常生活圏域で開催ができるようになりましたが、参加人数はまだまだばらつきがあります。そして内容もニーズにあったものとすることや開催の周知についての再考がこれから求められて行きます。28年度実施計画につきましてはこのような点を改善、工夫しながらまた同様に取り組んで行く予定となっております。</p> <p>続きまして資料、9ページ目をはぐってください。進行管理表も9ページ目をお出しください。こちらはまた資料1に沿って説明を進めて行きたいと思っております。小項目高齢者の健康づくり・介</p>

護予防の推進という項目に対しての活動になります。課題一つ目は、生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、また後期高齢者健診、各種がん検診の状況は低い状況にあります。これに関しての取り組み内容ですが、大通・味方・庄瀬地域での健康づくり講座を開催しました。そこでは継続した運動習慣へつながった人も出ておりますが、区全体から見ますとまだまだ少ない状況にあります。地域での運動サークルも数多くありまして、こちらの教室参加者の4割はすでにそういった地域でのなんらかの運動を実践されている方でありました。また各種健診の受診率は少ないというお話を冒頭しましたが、微増している状態であります。では課題二つ目。生活習慣病ですが、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少ないです。このままでは生活習慣病の発症が危惧されますという課題に関しまして、取り組みの中身ですが、おもに保健会で取り組んでおりまして、健康づくり講演会、元気アップ講座を各地区で実施しております。こうした活動を行うために地区保健会の支援を行っておりますが、まだまだ区では飲酒・喫煙率が高く、運動習慣のある人は少ないというデータが出ております。これに対しまして年度評価は計画どおり進めて実施をしておりますのでA評価といたしました。ただ今後の課題について説明をいたしますが、これからの高齢化社会に対応するには健診受診率を微増の状態ではやはり現状を打開できないということで、健診の受診率を劇的に高めるためには、ミニドック型集団検診など、従来にはない新しい取り組みをする必要があります。また生活習慣を改善するために、区民へのもっと今までにはない新しい強力な働きかけが必要のように判断しまして、28年度の計画にも盛り込んであるのですが、ミニドック型集団検診の実施とはかろう体重大作戦、こちらの取り組みを新たに展開しているところです。本日私が着ているTシャツもこの一環の中で区が作成したPRのTシャツになっております。

続きまして進行管理表は10ページ目、資料1のA4の評価表は10ページ目をお出してください。こちらの分科会の最後の小項目となります。こちらの小項目は認知症の予防と対策についてです。課題として認知症高齢者の増加があります。取り組みの内容は、脳の健康教室「楽しく能力アップ塾」を1講座、これは22回コースになっておりますが、こちらを実施しました。講座の参加者のレベルは非常に改善されておりますが、まだまだ区内全体を見ますと参加者としては少ない状況です。地域包括支援センターやボランティアにより、南区で初めて認知症カフェが誕生いたしました。認知症やその家族の通いの場となっております。認知症のキャラバンメイト、こちらのほうは認知症サポーターを養成する講座を、先生役となる方々をキャラバンメイトと呼んでいるのですが、この方たちの連絡会を立ち上げ、定期的な開催につなげております。次に課題の二つ目ですが、認知症の理解。理解はまだまだ不足しているというところです。取り組みにつきましては認知症サポーター養成講座について、区役所からの積極的な周知は実施していなかったのですが、それぞれの日常生活圏域のケア会議

	<p>を通して必要性を理解してもらったところ、新潟市全体、全区で3番目に多い回数、22回の講座を実施しております。中でも小学生、中学生、高校、企業など幅広い範囲で行われているのが特徴となっております。この小項目に対する年度評価は、事務局の中では全体の認知症の予防と対策の分野ではB評価をつけておりましたが、分科会の中で精査していただきましたところ、認知症サポーター養成講座等は十分に活動しているということから、BではなくA評価にかえております。今後の課題についてですが、軽度の認知症も含め、認知症高齢者は確実に増加をしています。地域での見守りや専門職による初期集中支援の対応が求められております。ただ、認知症予防教室への参加者は30人定員のところ12人と少ないです。元気高齢者や初期症状をお持ちの方へ参加をおすすめするのですが、なかなかこの教室の参加に至っておりません。これからも区民への早期予防といった視点での啓発が必要です。この講座「楽しく能力アップ塾」も区内1会場、この会場になるのですが、参加者が非常に限定されているのも課題となっております。次にキャラバンメイトの活躍の場について、こちらはサポーター養成講座の先生役となる方たちの活躍の場について、立ち上げた連絡会を通して定期的に検討していきます。それ以外にもより多くの地域の方々にサポーターとなってもらい、認知症を正しく理解していただき、認知症の方やその家族を温かく見守る体制づくりが必要となっております。認知症カフェの定期的な開催と安定した運営もこれからの課題となっております。28年度はほぼ項目としては27年度と同様の取り組みをしていきますが、課題についてはそれぞれに反映をさせながら進めて行くこととしております。以上で高齢福祉・介護者支援の分科会の事務局の発表を終了します。</p>
金子委員長	<p>それでは引き続き高齢者福祉・介護者支援分科会の登石委員様からご発言をお願いいたします。</p>
登石委員	<p>去る7月の12日、高齢者福祉・介護者支援分科会を開催いたしました。事務局案に対して意見交換を行いました。意見交換の結果を報告させていただきます。二点に分けて申し上げます。まず一点は、高齢者・介護者を支えあうまちづくり。それから高齢者の健康づくり・介護予防の推進、この二つの小項目については計画どおり進んでおり、全ての取り組みで年度目標を達成しておりましたので、A評価が妥当であろうという意見でございました。最後に認知症の予防と対策についてですが、認知症サポーター養成講座の周知について、年度目標数値を達成することはできませんでしたが、講座自体は全区で3番目に多い回数を実施してございます。またそのほかの項目についてもしっかりと取り組んでいるという意見が出ましたので、先ほど事務局からもお話がありましたが、全体の年度評価をB評価からA評価に変更させていただきました。以上で報告終わります。</p>
金子委員長	<p>どうもありがとうございました。それでは最後になりますけれども、地域づくり分科会から報告をお願いします。なお、ここに</p>

	<p>ございます従来、高齢者福祉・介護者支援の分野にございました高齢者の閉じこもりや孤立の防止というものが地域づくり分科会に所管換えのような形になっていますが、その経緯を含めてお願いしたいと思います。</p>
事務局・吉田	<p>健康福祉課地域福祉係の吉田でございます。よろしくお願いいたします。まず始めに地域づくり分科会の評価について、資料は資料1も資料2も同じページ数になっております。どちらも11ページをお開きください。まず小項目、地域のボランティア活動の場発信と活動支援についてであります。課題は、ボランティア団体の連携が弱い。これに対します取り組み内容としまして、白根の健康福祉センターのボランティアルームのことでありますが、ここに定期的な利用団体との連携ができました。それからボランティア情報の発行ですが、これにつきましては、新しく南区ボランティア・市民活動センターだよりの発行により、活動内容を支援いたしました。次世代のボランティア育成につきましては、研修会の開催によりおもちゃドクター、傾聴ボランティア団体という二つ新規の立ち上げにつながっております。課題のあらゆる世代への福祉教育による区民の支えあい意識の醸成では、小中学生を対象にしました福祉教育を学校と協力しながら取り組みました。これらの課題としては特に企業向けの福祉教育が進まなかったということでその分野を進めて行くものとしております。地域のボランティア活動の場発信と活動支援の評価はA評価が7項目中5つですが、新しいボランティア団体が立ち上がったことや、新しい情報紙などの発行など、内容として概ね達成されているとしましてA評価とさせていただきます。28年度の取り組み内容につきましては27年度の内容を引き続き取り組んで行くこととしております。</p> <p>次に1も2も12ページと13ページをご覧ください。地域の茶の間ですが、高齢者福祉・介護者支援分科会の小項目名であります、高齢者の閉じこもりや孤立の防止と地域づくり分科会の地域の茶の間・ふれあいいいききサロン活動の支援につきましては、あわせまして地域づくり分科会で説明させていただきます。内容としまして地域の茶の間・サロン関係の内容が重複しておりますので、資料1に沿って説明いたしますが、資料2をにらみながらお聞きいただきたいと思います。と思っております。</p> <p>高齢者分科会の課題であります高齢者のみの世帯、単身高齢者世帯の増加により、高齢者の閉じこもりや孤立が増えるに対します取り組みにつきましては、お茶の間・サロン情報を広報しましたが、その他地区社協や民生委員さんが要援護者を対象に昼食会、配食サービスや友愛訪問を実施しているということで、状況把握につながっていることを記載させていただいております。次に居場所づくりは進んでいるが「男性の参加者が少ない」「世話人の確保」等が課題につきましては、区社協がお茶の間・サロン運営につきましては相談をしてきたお茶の間・サロンの運営者に対しまして、引き続き運営してもらえるように助言等、支援を行って</p>

まいりました。次に誰もが参加でき、多世代が交流する居場所が望ましい、中間世代の参加が少ない、につきましては、区社協がお茶の間・サロン研修の中で相談を受けました時に、地域のつながりを深めるために多世代交流が必要ですと、それから助成金制度がありますよ、などの多世代交流を進めてもらえるような説明をしてまいりました。次に交通手段が乏しく、高齢者の活動範囲が制限されるにつきましては、一部の地域ではありますが会員同士で送迎を行い、交通弱者となっている方の参加につなげております。

次に地域づくり分科会、13 ページ見ていただきたいのですが、傾向として参加者が女性のみ、または女性がほとんどでまた、自力歩行による会場への困難になっていると、10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっているという課題につきましては、内容が先ほど申しました、交通弱者になってきていることと、お茶の間・サロンの運営が今後の課題になっているということでございます。内容は高齢者部会の交通手段が乏しく、高齢者の活動範囲が制限されていると、居場所づくりが進んでいるが男性の参加者が少ないなど課題は同じということで同じ取り組み内容とさせていただきます。それからサロン・お茶の間の独自開催ができないところがあります、につきましては、区社協、包括支援センター、保健師が自主運営についての助言等行っております。参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。概ね10人以上の参加者が必要につきましては、助成金の申請について説明会を開催しまして、お茶の間・サロン運営事務の負担軽減を図っております。取り組み内容のお茶の間・サロンの後方、研修会や情報交換会などは年度目標とおりに達成するためについてはA評価といたしました。参加者呼びかけ運動の評価月間の設定につきましては、これにつきましては常に参加者の呼びかけが行われるため、評価月間を設定しなかったために、D評価。それから参加者同士の親睦につきましてもD評価なのですが先ほど会員同士の送迎が始まっております。小項目高齢者の閉じこもりや孤立の防止と地域づくりの課題、茶の間・ふれあいサロン活動の取り組み内容につきましては、取り組む必要がないものなどがD評価になっていますが、広報や研修などにつきましては目標通り実施しましたということで達成は50パーセントという評価をしましてC評価といたしました。

みんなで作っていくお茶の間・サロンより自主運営につなげることや世代間交流などが今後の課題としております。これらの課題解決に向けて今後の課題としております。28年度の取り組みについてはサロンの参加者による参加呼びかけ運動の実施、強化月間の設定につきましては先ほど申しましたとおり、呼びかけは常に行っているため、特に強化月間を設定する必要がないということで、28年度からは項目から外しました。男性サロンの立ち上げにつきましては、まず男性を対象にした交流会を優先して取り組むことが、まずもって現実的にできるということで、交流会ということで内容を変更しております。運営しやすい環境作りの検

	<p>討、参加者同士の支援、地域の互助によるしくみづくりにつきましては、各種講座やサロン交流会及び研修会の実施の中で統合して取り組むことにしております。子育てサロンと高齢者の交流会実施につきましては、子育てサロンが実施されている地域の高齢者と会わないところが多く、取り組みができないということが、実質的には無理だろうということが検討の結果わかりましたので、項目から外すことといたしました。以上の変更によりまして28年度の取り組み内容は高齢者福祉・介護支援者と地域づくりの分科会は、同じ内容とさせていただきます。</p> <p>次に14ページ、資料1、資料2をお出してください。災害時要援護者支援体制の充実についてですが、課題、災害時要援護者支援体制について、災害時要援護者名簿の取扱についての取り組み内容につきましては、自治会での説明会で自治会役員交代の際の引き継ぎの重要性について説明をしております。地域の助け合い意識の向上につきましては、多くの各自主防災会から理解とご協力をいただきながら、要援護者支援訓練の実施をしております。23の自主防災組織がありますが17組織が実施していただいております。取り組み内容の評価は、多くの自治会や自主防災組織からの協力をいただき、年度目標に達しましたのでAとしております。28年度の取り組み内容につきましては、27年度の内容を引き継ぎ、取り組むということとしております。以上で地域づくり分科会終わります。</p>
金子委員長	<p>それでは続きまして地域づくり分科会、長谷川委員さんから報告をお願いいたします。</p>
長谷川委員	<p>それでは地域づくり分科会、ご報告いたします。7月12日に高齢者福祉・介護者支援と地域づくりの合同分科会ということで開催されました。まず小項目どおりにご報告いたします。小項目の地域ボランティア活動の場発信と活動支援につきましては特に意見はありませんでした。次の高齢者福祉・介護者支援分野の小項目の高齢者の閉じこもりや孤立の防止と地域づくり分野の小項目名の地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン活動の支援についてですが、評価については特にはないのですが、一つは運営の方について、茶の間の運営について、茶の間をただ茶の間というだけでなく、テーマを決めて運営、開催したほうがいいのか、そうすれば開催する方も参加する方も非常にいいのではないかと意見がありました。これは今後検討が必要だということでございます。</p> <p>それから、お茶の間のサロン、サロンというのとお茶の間というのと言葉が混雑してまして、時にサロンと言ったり時にお茶の間と言っているの、どっちなんだという議論になりまして、事務局からは内容としては同じですという回答でした。我々もそう思っていて、今後言葉を検討したほうがいいのかというような方向で終わっています。</p> <p>最後に災害時要援護者支援体制の充実の項目ですが、特に意見としては出ておりません。以上で報告を終わります。</p>

金子委員長	どうもありがとうございました。ただいまの各分野の小項目ごとに課題、取り組み内容、それから運営評価、合わせて今後の課題ということで報告がございました。皆さま方から何かご意見、ご質問があれば挙手をお願いしたいと思います。マイクお持ちしますのでよろしく申し上げます。何かご意見ございますでしょうか。はいどうぞ。
山宮委員	味方コミ協の山宮でございますが、多岐にわたる評価がなされたわけですが、本当に確認、やった内容の確認そのものがどうなっているかというのが疑問に思いました。ふれあいマップ、福祉トイレマップ、これは非常に老人には喜ばれる、やすらぎの森公園、これは確か新しくできたなと思って地図を見てみたら、地図にはやすらぎの森公園というのがない。本当に使いやすいトイレというのはまだいっぱいあるんです。公園とか、駐車場、トイレが非常に使い勝手がいいというのは、私の経験上から行きますので、まとめられたとしたら、もう一步踏み込んでチェックができなかったかなという気がするわけです。味方ですが、味方もここに表示した以外のものはけっこうあるんです。各農村部には農村公園を作っていますけど、農村公園にはみなトイレがありますから、もっと隅々このほうまで情報を収集していただくとか、もうちょっと使い勝手のいいものにして効果を高められないかなという気持ちがいたしました。目標としてはそういった活動をやってそれを定着していくことになると思うのですが、担当部門で、2度3度もチェックを入れるという、そういった方向が望ましいのではないかなという気持ちも持ちましたのでひと言発言させていただきました。
金子委員長	事務局のほうはいかがですか。
事務局	今、山宮委員さんの質問にということで。これも福祉マップが作られた経緯からなのでございますが、これにつきましては障がい者の3団体、南区身体障害者福祉協会、南区手をつなぐ育成会・南区肢体不自由児者父母の会、その3団体がそれぞれ点検しまして、それをもって障がい者の方、とりわけ車いすを利用している方たちが、自分たちが利用できるものについて、施設にトイレとか、につきましては、まず作ったマップでございます。もちろん現地に行って使えるトイレ等を落とし込んでおりますので、そのへんのところまずちょっと限定されて作られているというのをご承知していただきたいと思います。もちろん、後ほどお話しするのですが、もっと利用勝手の良いマップを作ってくれないかというのがございまして、作る方向でございます。高齢者とか乳幼児を抱える親御さんたちもいざという時に使えるようなものに、今、検討しておりますのでご理解をいただきたい、ご承知して、皆さんからもそのような事業に取り組んでいますよということで、ご理解をいただきたいと思っております。
金子委員長	よろしいでしょうか。
山宮委員	増刷される時は、目標部数が相当あるようですから、そういう時は民間の施設まで入れて、増強していただいて配布いただける

	のかどうか、そこを聞きたいのですが。
事務局	発行部数、どこを対象にして配るのか、全てそういうのも検討しながら事業に入りたいと思っております。
金子委員長	時間の関係もございますので、これで質疑等を終わりにしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは意見がないようでございますので、続きまして土橋先生から総括としてご助言をお願いしたいと思います。
土橋アドバイザー	<p>どうもご苦労さんでございます。感じたところを述べさせていただきたいと思っております。今回の評価というのは、だいたい全国的に見ると非常によくやられてきたという評価になっていると思っておりますし、報告を聞いている限りにおいてはそれぞれの事業が展開されてこのような状態になっているというのがよくわかりましたので、良いのではないかなと思っております。これからもぜひ積み上げていってほしいと思うのですが、各部会ごとに話されたこと、取り組んで来たことなので、ちょっと気になったこととか、これはどういうふうに解釈するべきなのかというところでお話をさせていただきたいのです。</p> <p>児童・子育て分野では非常に新潟日報でも載ることがあるのですが、子育て支援というところでは一生懸命やってらっしゃるということが見てとれますし、事実今日の報告にもそのへんが出ていましたから、非常にいいことだなと思っておりますし、父親の参加というものを促していこうということで、機会をとらえて母親教室でしょうか、いろいろ教室の中で参加者が増えているということで、いいんじゃないかなと思っております。28年度に向けてアウトリーチをしていきたいということで、ぜひ課題を抱えている、そういうところに来られない人たちを探して、その人たちへの支援をどういうふうにしていくのかということをして是非考えていただけるといいのではないかなと思っております。</p> <p>それから障がい者福祉分野ですけれども、基幹センターの体制の充実ということも含めてPRを重点的にやられたということで、私の所属している新潟しなの福祉会では、二つの基幹センターに職員を出しているのですね。中央とそれから西の二つのところに、うちの職員を出しているわけですが、3障がいと一緒に相談を受ける場所であるということで、必ずしもですね、今の4か所で足りるとは言えないわけで、今5か所目くらいかもしれませんけれども、1区に1か所はどうしても必要なセンターであろうと。新潟しなの福祉会は、精神障がいを持つ人たちへの支援をしている事業所ですから、うちの相談員がするところの中心なのは精神障がいを持つ人たちなのですけれども、3障がいの相談を一人の人が受けるという、非常に今難しいのですね。というのは、結局障がいを持っている人たちであっても分野別にそれぞれ分かれて現場での指導をしてきた、指導とかお世話をしてきたということで、実際には知的障がいに関することをやっている方は知的障がいについては強いけれども他の障がいについては十分に答えをできないとか、精神障がいを持つ人たちのことに</p>

については、ちょっと知的障がいの相手をされていたところでは理解ができないとか、運営に支障がありまして、今、どれをもって統一して対応できるようにするかというのが問われていますけれども、そのほかにその基幹センターをもとに各事業所が地域の中にあるわけですから、そこにつなげていくことができれば、非常に形になるだろうと思っております。

今、福祉マップの話が出ましたけれども、福祉マップも初めて作ったということですから、不備もいろいろあるんだろうと思えます。しかし、それを積み重ねていったいいものにしていただければいいのではないかなと思えますし、今お話ししたように障がいを持つ人たちのことでも、いろいろと分かれてしまっていて、なかなかお互いに共通の理念を持ってないという現状にあるわけですから、ましてや障がいを持つ人と高齢者とそれから児童、少年というようなところまで含めた地図というものを作ろうとすると、かなりのエネルギーといろんな人たちの協力が必要になってきます。それをするためには皆さん方がこれから積み上げていった過程、これも必要、あれも必要ということで作られてくということになると思いますので、それはいいきっかけにいただければいいんじゃないかなと思っております。

それから高齢者の見守りであるとか支える仕組みづくりですけども、見守りのシステムを作られた地域があるということですけども、是非今回のこともそうなのですけども、事業をやるといことと、事業をやりっぱなしでそれでたくさんできたからいいという評価ではなくて、それが常時動く仕組みになっているかどうか。だから支える体制といってもただ見守りのこと、見守りシステムを作ってますよというのを皆さんが確認ができるのであれば、それは誰がそこに相談しても何かあるときにはいつでも飛んでいきますよという仕組みづくりにつながるようにしてほしいと思うんですね。ですから1か所でもできたということはこれから非常に期待ができるのではないかなと思っております。

それから認知症カフェができたということですけども、こういうものはなかなかたくさんできないものですけども、一つ一つ積み上げていってぜひいいものにしていってもらえればいいかなと思えます。カフェという言葉を使っていますけれども、茶の間とかサロンもカフェの一つに入っているんですね。なぜこんなことを言うかという、人が集まる場と解釈してください。それをカフェと言ったりサロンと言ったり茶の間と言ったりでしょうが、それぞれ作られた人の思いが入っていて、茶の間になったりそれからサロンになったり。ですから新潟県は茶の間が非常に通っている県なのです。ほかの県へ行くと茶の間っていうことを言わないでサロンで統一されているんですね。これは河田さんが新潟市内で広めて大きくしていった、それで県下に広げていったという功績が、今地域の茶の間という言い方に定着しているわけですから、これは新潟ではそれをどんどん使っていて、別にサロンと言わなくてもいいと思うのですけれども、別にサロンも地域の茶の間も同じようなものだというご理解いただければ

ばいいかなと思います。

それから地域づくりのところですけども、ボランティア団体が二つ増えたというお話しでしたけれども、ぜひこれからもいろんなボランティアの育成が必要となってくると思いますので、若い人たちにどうやって働きかければ出てきていただけるか。三条、水害があった時に、水害にあった地域の住民は、非常に途方に暮れていた。でもそのときに、地元の中学生在がお手伝いをした時に、皆さんの顔が輝いたんですよね。遠くから来てくれるボランティアがやってくれるのもうれしいんだけど、やっぱり地元で元気な人たちが自分たちのことを見守ってくれているという意識は非常に強いものになります。だから、そういう意味で、今は中学でもボランティア活動参加できるわけですよね。これはもちろん学校と十分に協議をしていただかないと、余計なところまで手を入れちゃったというね、うまく行かなくなることもありますから、そこは話し合いをしながらやってほしいのですけれども、中学生であってもボランティア活動が十分できるということを考えて、もっともっと対象を広げていくことが必要ではないかなと思います。

それから、茶の間だとかサロンに、利用者の足がないということで、仲間同士でお連れ申しあげますということでやってらっしゃいますけれども、注意してほしいのは事故を起こさないようにやってほしいんです。できれば事故対策までやれば良いと思うのです。使う車を行政か社協かで認めて保険をかけるという仕組みもあるわけですから、そういうようなことができるようにボランティア保険を使うとか、何か考えていただかないと、もし起きてしまうとせっかくの好意が今度は大変なことになってしまいますので、是非考えていただきたいと思います。

それから先ほど地域づくりの分科会の報告の中で、誰でも参加できるサロンということがなかなか難しいというお話がありましたけれども、これから高齢者だけで作っていくとしても、行き詰まりになっていくだろうと思うんです。というのは高齢者も高齢化がどんどん進みますから、担い手になる人たちがなかなかいなくなってしまうという現象が起きてきます。そうなってくると若い人たちも、それから障がいをもつ人たちも、いろんな人たちが参加できる場に切り替えていくということがこれからはのぞましいのだらうと思います。もちろん高齢者だけの場でいいわけですけども、その地域で工夫をされて、考えていっていただくことが大事じゃないかなと思います。

それから後、災害時支援体制ですけども、是非これはどうしても必要なことですので、みんなで考えてさらによくしていただけたらありがたいなと思います。

それからもう一つです。皆さんにお願いをしたいことなのですが、今回は4部会でのお話し合い、また4部会での評価ということを中心になっていますけれども、地域包括ケアと言われているものを、今、全区で進めようと新潟市では考えていらっしゃるようですけれども、地域包括ケアで大事なものは地域づくりで

	<p>す。地域づくりを進めていくときに、アクションプランで、12の地域、そのそれぞれの地域ごとにアクションプランを作っていますよね。それらがどういうふうに進捗しているのかということも是非皆さんにお聞かせいただきたいのです。やはり地域ごとにそれぞれの地域の中にいらっしゃるお年寄りや障がいを持つ人、それから子供たちが、どのような状況に置かれているのか。地域の住民は、今、アクションプランでやっていることについてどう考えているのか。そしてこれからどうしたいのか、そんなことがちゃんとあがってくるように、是非、後期のまとめの時には作っていただけたらありがたいなと思っております。</p> <p>それから最後ですけれども、相模原市で、津久井やまゆり園で悲惨な事故、事件が起きました。その植松聖容疑者の、いろいろと明るみに出てきてますけど、皆さんにお願いしたいのは、実は彼の考え方が、優生思想であるとかナチスドイツのヒトラーにあたいするとかということが言われていますけれども、私はそれよりも、1600年代にイギリスで有能な貧民と無能な貧民という分け方をして、貧困者を労役に使った。その時代のことを考えます。それから最近になって市場原理というのを言われていますよね。強いものが勝つというのか、優秀なものが勝つというような、そういう功利主義的な考え方、その二つの考え方は相通ずるものがあると思うのですね。私たちはハンセン病の患者さんたちをずっと長いこと塙の中に閉じ込めてきました。施設の中ですね。それも結局は偏見と差別なのですよね。私たちの心の中に、実際にはそういうものが常にあるわけです。それがああいう形になって出たんだらうと私は思うので、彼の特殊性、彼が特別にやったから彼の問題だという片付け方でなくて、私たち全体が障がいを持つ人たちに対する偏見差別はないのだろうか、そこらのところをきちっと捉えていただけてみんな考えていってもらう課題ではないかなと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。</p>
金子委員長	<p>どうもありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。せっかくではございますが、委員の皆さま方から土橋先生に対して何かお聞きになりたいことがあればお受けしたいと思ひます。よろしいでしょうか。先生どうもありがとうございます。</p> <p>それでは、今の各分野において今後の進行管理に生かしていただければと思ひます。それでは議事の4番、次第の4番、報告及び連絡事項というところでございます。(1)平成28年度にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金審査結果について報告をいたしたいと思ひます。これについては5月26日に審査会を開いて決定したものでございます。事務局から説明をお願ひしたいと思ひます。</p>
事務局・高木	<p>私、事務局の健康福祉課地域福祉係の高木と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>まず始めに平成28年度にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の概要について説明させていただきます。お手元の資料3をご</p>

覧ください。この補助金は地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、地域が抱える福祉課題や住民課題の解決に向けた活動を行う団体に対して助成を行うものです。対象となる事業は、健康・福祉・生きがいを推進する事業。ボランティア活動の活発化に関する事業。要援護者の見守り、助け合いに関する事業など、地域福祉を推進するための視点が設定されている事業です。補助額は1事業年間20万円が限度となっております。補助期間は最長で3年間です。補助対象経費についてですが、記載されています報償費から光熱水費までが対象となります。

引き続きまして資料4をご覧ください。平成28年度南区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の審査結果について報告させていただきます。今年度4月4日から5月10日まで事業の募集をしたところ、4事業の申請がありました。3年目の継続申請が3件、新規の申請が1件でした。5月26日に当推進委員会の金子委員長、山田副委員長を含む5名の方から審査員になっていただきまして、審査会を開催しました。4事業全てが採択とされました。この4事業につきましてご報告いたします。

一つ目の事業ですが、ボランティアサークルふおうはあとが実施します、地域活性化ボランティアプロジェクトです。事業の概要ですが、世代間交流を地域内外で体験することにより、住民間の人間関係を深め、ボランティア活動を推進し、青少年健全育成を図るものです。事業はおもに定期的に保育園、小学校等での絵本の読み聞かせを行っています。また昨年度に引き続き、白南中学校において生徒、保護者、先生を対象にエッセンシャルオイルを使っの虫よけスプレーづくり、子どもを対象に工作、手芸などのものづくり講座、子どもが中心となって運営するフリーマーケットを開催する予定となっております。南区地域福祉アクションプランの地域づくりの目標であります、私たちが支えあい助け合うまちに該当する事業です。

二つ目の事業は、ボランティアサークルデザンジュが実施します南区地域交流事業です。事業概要は、地域の皆さんが参加しやすいイベントを行い、楽しさや喜びなど、心と体のセルフメンテナンスをできるようなきっかけづくりを提供することです。おもな活動ですが、子育て支援センターや、白根健康福祉センターなど施設に出向いて、子育て中の母親、高齢者などを対象にハンドマッサージを実施しています。また南区の伝統工芸に触れるワークショップなども実施する予定となっております。南区地域福祉アクションプランの児童・子育て分野の目標、安心して子育てできるまち及び地域づくり分野の私たちが支えあい助け合うまちに該当します。

三つ目の事業ですが、白根手話サークルつばさによる南区ふれ愛やさしく手話講習会事業です。事業概要ですが、南区民を対象として聴覚障害者の講師を招き手話の講習会を開催するものです。今年度は白根高校に三日間、月潟地区を対象に7回コースで手話講習会を実施します。南区地域福祉アクションプランの障がい福祉分野の目標にあります障がいのある人もない人も安心して

	<p>くらせるまちに該当します。</p> <p>最後の事業ですが、特定非営利活動法人まちづくり学校による地域ふれあい発見発信！まちたんけん&amp;新聞づくりです。事業の概要ですが、小学生の親子を対象にまちたんけん&amp;新聞づくりを行い、大人も子どもと一緒に自分の暮らすまちの魅力に気付いて愛着を感じてもらおう事業です。昨年度立ち上がった自主組織、白根大風タウンガイドのボランティアが事業の企画から関わりガイドとなって小学生の親子と白根のまちをたんけんします。こちらは児童子育て支援の目標、安心して子育てできるまち及び地域づくりの私たちが支えあい助け合うまちに該当します。</p> <p>以上でにいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の審査結果について説明を終わります。</p>
金子委員長	<p>今報告ございましたが、何かございますでしょうか。それではないようですので、その他ということでございます。よろしいでしょうか。それでは事務局お願いします。</p>
事務局	<p>それでは事務局から二点、連絡させていただきます。</p> <p>第2回推進委員会の開催予定ですが、2月を予定したいと思えます。また、その前に各分科会で29年度の進行管理につきまして意見交換をいただき、推進委員会で報告をお願いする予定となっておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>次に南区ふれあい福祉マップ、これについては先ほど申しましたように障がい者関係団体が、にいがた安心ささえ愛活動の補助金を使って作成したものでございます。昨年度自治協議会におきましてこのマップを高齢者など対象者を広げた内容のマップづくりが提案されました。その提案を受けまして今年度どうするか、どのように作っていくかという検討会を開催することとしております。つきましては幅広い意見を聞きたい、取り入れたいということで、子育て、障がい、高齢、地域づくりの各分科会からお一人ずつ検討会のメンバーに入っていただきたいということで、お願ひしたいと思えます。検討会は4回ぐらいの開催を予定しておりますが、よろしくご協力をお願いいたします。</p>
金子委員長	<p>それではこのマップの検討委員会のメンバーとして後で事務局で個別にお願ひに伺うということでございます。その時は一つよろしくお願ひしたいと思えます。</p> <p>それでは本日、議事等も終了いたしましたので、会議の進行を事務局にお返ししたいと思います。皆さん、本当に大変ありがとうございました。</p>
事務局	<p>長時間にわたりましてありがとうございました。今日いただきましたご意見、それから土橋先生からいただきました貴重なアドバイスを踏まえまして、今後のアクションプランを推進していきたいと思えますのでよろしくお願ひいたしたいと思えます。それではこれで予定したものが全て終了となります。大変ありがとうございました。</p>